

令和2年

第1回 総合教育会議録

あさぎり町教育委員会

令和2年6月23日(火)

## 令和2年 第1回 あさぎり町総合教育会議録（要旨）

日 時	令和2年6月23日（火） 午後1時30分
場 所	あさぎり町役場本庁舎 2階 大会議室
町長部局	あさぎり町長 尾 鷹 一 範
出席委員	澤田光徳 矢野幸代 中村麻有 伊勢啓史朗
欠席委員	
事務局職員	教育長 米良隆夫                      教育課長 出田 茂 教育課長補佐 山口宏子              指導主事 小園貴寛 教育課主幹 緒方理恵                  教育課主幹 坂本幸治

《開会 午後1時25分》

### 1 開 会

○山口課長補佐 それでは、ただいまより令和2年度第1回あさぎり町総合教育会議を開会いたします。

### 2 町長挨拶

○尾鷹町長 皆さんこんにちは。あいさつというよりも、皆さん方にお礼を申し上げたいと思います。日頃よりあさぎり町の教育に関する事で、皆様方には大変お世話になっていることに厚く御礼申し上げます。また今回は前任の桑原教育委員が辞任の意思がありまして、引き継いで、同じ岡原の伊勢教育委員にまたこの職についていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。今日は色々と協議の内容も、ここに並んでおりますが、私は民間から来たことで民間目線とよく言われますが、民間目線というよりも、これからの将来、近い将来も含めて、将来のあさぎり町をどのように方向づけていくかということを考えて事業に取り組んでおります。教育は教育長はじめ、教育委員の皆様方にお任せするというか、そういう方針でいきたいと思いますが、でもやはりこれから、あさぎり町を担ってくれる若者を育てる意味で、そういう観点からですね、今日のテーマの中にも、一つ中学校における農業研究クラブについてということも、御紹介させていただきますけれども、地域が元気にならないと、日本という国もだんだん将来的に国力が落ちてはいけませんので、そういう意味で、やはり地域が頑張っていかなきゃいけないじゃないかと、そのためには、子供の教育に力を入れたいという思いで、農業研究クラブというものを始めることにした次第です。詳細はまた協議の中で御説明していきたいと思います。どうぞ今日はよろしくお願いいたします。

### 3 協 議

○山口課長補佐 それでは協議に入りたいと思います。協議の方は、会議運営要綱の題上にありますとおり、進行については町長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

#### (1) SWC（スマート ウェルネス シティ）について

○尾鷹町長 では1番上にあります、SWC、スマート ウェルネス シティについて、説明をさせていただきます。この事業はなかなか簡単に一言では言いあらわせないところがあるんですが、まだ私が町長に就

任します2年ぐらい前にNHKの朝の番組で、新潟県見附市が紹介されてまして、いろんな取り組みの中で、まず医療費が1人当たり34万ぐらいのものが、スポーツをすることで約10万ぐらい医療費が落ちてるといって、そういうテレビ番組を見まして、私も自分の活動の政治活動の中でですね、これを勉強したいと思って、見附市の方をお願いして研修を受けたことがあります。そういうことで始めたんですが、まず一つには、やはりいろんな歩くこと、それから、いろんなビーチバレーとかウォーキングとか、そういうものをしながら、健康な体をつくって健康寿命を延ばしていく、そういうのが一つ。それから、やはり健康になることで医療費や介護費の費用負担を抑えていく、というような意味もありますし、またここは筑波大学の最近コロナになってよくテレビに出ておられます、久野教授、この人が科学的な分析、データを収集しながら科学的な分析をして、エビデンスという、科学的根拠を集めておられます。そして、そういう取り組みをする市町村も100を超えてまして、私もその中に、参加させていただいて勉強しているわけですが、いろんな勉強の中でですね、やはりあさぎり町の福祉、どんどんどんどん仕事が業務が膨らんできてます。職員の話を聞くと、やはりこの事業はまだ続けられないといけないのだろうかというような事業もあると聞きますし、なかなか業務が複雑になってきて、私たちも簡単に説明を聞いても理解できない部分もあります。私もそこ辺はですね、自分で会社の経営をしてきて、時々やはり業務の整理をしないと、かなり無駄なものがあります。わかりやすく言うと棚の上にいろんなものがどんどんどんどん生活していると、いろんなものが棚の中に、この時は必要と思ったものがだんだん溜まってきます。そして新しいものをまた入れていかなきゃいけない。ちょっと棚を整理しようかと思ってみると、案外と捨てるものが多い。そして、すっきりして、そして使い勝手のいい配置にもう棚の中を整理できると、そういうようなですね、福祉業務の整理整頓、スクラップアンドビルドというような事業をやったり、あるいは、この中にも出てると思うんですが、基礎疾患を持ってる方、それから、ちょっと虚弱体質のために、なかなか外に出られない方、そういうような方ですね、どのような運動するのが一番適当か、そういう情報を筑波大学の方から教えていただきながら、そういう基礎疾患のある方、ちょっと虚弱体質の方にあつたスポーツを選んで、そういうものを教育課の方でメニューをつくってもらう。そういうものをやりながら、体力測定とかですね、病院の方ではいろんな検査等やってもらって、その運動の成果がどのくらい上がっていくのか、それによって、さっき言いましたように、健康な体になっていく、医療費、あるいは介護費の削減につながっていく。そういうような取り組み。これは補助事業で今内定はいただいておりますが10月1日から始める予定ですけれども、1番下に書いてありますが、令和2年10月1日の運動スポーツ習慣化促進事業ということで、一応この中に入っているところです。ここに書いてありますようにですね、事業概要としては、町内医療機関と連携し生活習慣病・フレイル予防の目的から自分に合った運動・スポーツを日常的に実施できる体制を構築し、ICTを活用した運動プログラムを実施すると。そういうようなそして、医療機関関係団体、民間企業、大学等と「産官学」が連携して、疾病がある町民も可能な運動・スポーツの普及と継続的な実施を目指すものであると書いております。こういうような今のところですね、その事業等、その上の上に、下から3番目のほうに、あさぎり町健康政策PDCAマネジメント、これが業務の整理整頓ですが、こういうのをやっ払いこうと考えているところです。今年は、ちょっとメニューがあんまり多くなりますので、まだやってませんが、万歩計がですね、USBになってまして、その万歩計を持って歩く、あるいは自転車で走る、そういうものが全部データとしてその万歩計の中に入って行って、それをパソコンに落とし込める。いろんなスポーツをしたのが全部ポイントとなって落とし込んで行って、健康ポイントで1年に1回、町民の皆さんにその商品券として還元する。そういうことで皆さんたちが、自分に合ったスポーツを取り入れた生活というのを作っ払いこうというような、それがSWCです。今106市町村が入ってまして、私も1回、筑波大学のほうに行きました。2回目はテレビ会議でしたけ

ども、なかなかですね、どこの市町村長もすばらしく勉強されてて、もう久野教授が説明しながら、ぼつぼつ当てていくわけですね、皆さんどう思いますかって、できるだけ当たらないように下向いて、もう下向くと、ぼつと当てられるんですけども、皆さんすごく勉強されてまして私自身もですね、もう知らないことばっかしで、一生懸命勉強しているところですけども、そういうふうないろんな健康以外のいろんな情報も入ってきますので、首長として非常に為になる組織だなと思います。熊本県では高森町とあさぎりが二つが参加してます。高森町の方はちょっと今活動はされておられないみたいですけど、そういうような内容がSWCです。一方的に説明をしましたが、皆さんの方からいろいろ御質問等あればお受けしたいと思います。はい、どうぞ。

○澤田委員 はい、澤田です。はい。10月1日からもう。

○尾鷹町長 はい。

○澤田委員 その、これを開始する予定ですよ。

○尾鷹町長 そうですね。

○澤田委員 初年度の事業としては、万歩計を各個人に配布するという…

○尾鷹町長 いやいや、すみません。ちょっと万歩計のやつはまだ次年度以降ですね。今年度はいわゆるここに書いてあるように、病院の方からですね、生活習慣病とか基礎疾患もあるような方々を紹介していただいて、そしてその方に合ったスポーツを選んで、生活の中にスポーツを取り入れて、健康になってもらおうという、2ページ裏の方の、P2の方の1番下のやつですね。はい。

○澤田委員 それこそ医療機関との連携ということが1番大事だっていうことですね。

○尾鷹町長 そうですね。

○澤田委員 高齢者も、高齢者の方が1番ですね、病院に掛かる人が多いですから。要するに人間ドックとか行きながら、定期的な検診のなかで、それぞれの症状にあった運動を指導をしながら、体力をつけてくださいということで、していくということですかね。関係団体といいますと、それぞれの事業所でもそれに対してしっかりと協力いただくということで、事業所の了解を得ると。

○尾鷹町長 今ほとんどの医院の方をお願いして、東病院とかですね、いろんなところをお願いして、受け入れていただいているところです。

○澤田委員 ぜひとも町民がすべての運動に携わりながら健康づくりをやるということで。

○尾鷹町長 そうですね。

○澤田委員 非常に良いことだと思います。はい。その運動施設としてなかなか、各地区で設備はバラバラで、運動するのはどこでもできるんですけどもね。私も球磨川沿いとかあさぎりロードを歩きながら、走りながら、ウォーキングしながら、毎日運動してますけど、須恵の場合は、それ以外なかなか運動する場所がなくて、まあグラウンド等ですることはできますが。なかなか雨天時は、運動することもなければ、場所もないと。スポーツする場所もなかなかないのでですね。

○尾鷹町長 そうですね。スポーツする環境も作っていかうと思います。見附市にはですね、元ショッピングセンター、大型ショッピングセンターだったところが空き家になって、それを町が購入して、そのお店だったフロアをスポーツジムみたいな、ペダルを踏むやつとか歩くやつとか、あるいは少し筋力トレーニングのダンベルとかも置いてですね、そういうところで運動したり、来たらまず最初に血圧を測って、もうそれは、そういうのも全部その万歩計のデータの中に入れてあってですね、そこの中には介護支援センターの人たちが来て、知的障がい者の人たちが来てですね、うどん屋さんをして、食事もできる。またおしゃべりもできるというようなコーナーもあつたりとかですね。そういういろんな触れ合いの場所も作ってあります。1ページの1番下のところにですね、あさぎり町の今後のSWCの取り組みにつ

いてって書いてあるんですが、あさぎり駅前を中心市街地の歩道や広場などの整備、これはですね、国が今、国土交通省がこういう歩いて健康づくり、ヨーロッパ的なまちづくりを目指して、ウォーカブル推進事業というのをやってます。あさぎり町はほとんど道路が整備されて歩道もついてるんですけど、肝心の中心市街地の国道219号線がもう御存じのとおり歩道が狭くてですね、小学生が通学する時も、もう本当ストレスのところを大型トラックが通っている状態ですので、今一生懸命、国県にお願いして、歩道整備を急いでもらうようにしてるんですが、それに関連して駅前あたりももう少し東側のほうの歩道整備をしたり、今度は今あそこに駐車場があるんですが、あれは所有者の人からですね、年間180万出して、町が補助して、商工会のほうで借りてもらってたんですが、そちらのほうも何とか購入することができたもんですから、そういうのを使ってですね、駐車場とか歩道とか、いろんな健康に関する取り組みができるようなまちづくりをしたいと考えてます。それと今の県が県道の錦湯前線という、ちょうど上小学校の前の通りが、今の自転車サイクリングロードでですね、道路上に自転車が通るところは矢印がついてます。そういうのと、今、澤田委員が言われたように球磨川沿いにもサイクリングロードがあります。東西に走ってますけど、それをつなぐ南北線がないもんですから、もうあさぎりは免田にも、ふれあいロードというのがあったし、上地区にもシンボルロードがありましたので、それを県のほうにお願いして整備してもらって、南北にも繋ごうと。それを使ってですね、あさぎり町の人たちも、自転車を使って健康づくりしてもらえればなというふうに考えてます。それとか、一旦10月からの医療機関との連携した運動教室、それからさっき言いました筑波大学の久野教授にも、この12月に来ていただいてですね、おどろ健康づくり大会で講演会をやるかと考えております。それから今、健康ポイント事業のICT化というのが、これが、いわゆる万歩計を使ってですね、皆さんたちの運動状況をちゃんとわかるようにしていきたいと。これは次年度以降の取り組みになると思います。今あさぎり町も合併したおかげで、だいぶ国からの交付金というお金が来るんですが、近い将来、今100億から110億ぐらいの収入がありますけれども、これが80億ぐらいに落ち込んでいくということを想定して、じゃあ今後まちづくりをどうしていくのかということ、行財政改革の中でですね、少しずつ取り組み始めたところです。そういう中でやはりどうしてもこの医療関係が上がっていくもんですからですね、これをやっぱり削減するためには皆さんに健康になってもらうことが1番だというような取り組みになるわけです。どうぞ皆さんのほうから何か御質問があれば。

**○伊勢委員** すみません、まず、最初の段階で、病弱な方々への対応から始めたいということなんですけど、あさぎり町は非常にこう広くて、やはりこう場所の移動とか、それから、在宅でなかなか出れないという方もおられるみたいなんです。そういうところあたりの支援があったりとか、人的な配置とか、そういうのも必要だと思います。関係機関との連携力等を中心に進めていきたいというやっぱり人的な必要性も出てくるんじゃないかなと。それから、今コロナでなかなか外に出るとか、まして病弱な方々あたりにはかなりの配慮が必要だと思います。コロナ第二波、第三波も来る可能性もあると思いますので、そういうところも配慮して、実際どういうふうに動いていくのかということも、かなり検討が必要じゃないかなと思いますが。すいません。

**○尾鷹町長** はい。おっしゃるようになりますね、本当に人的な、マンパワーがないとなかなか浸透していかないと思うんですが、今、社会福祉協議会の中で、小地域ネットワーク事業というのに今取り組んでいます。去年が上地区の石坂区がモデル地区でやりました。旧免田地区には以前からあったんですが、福祉委員会ってのがあってですね。それぞれの行政区毎に子供、それから高齢者の人たちのお世話をする福祉委員会ってのがあって、そこがあるところは、もう地域ごとに活発にいろんな活動されてます。もちろん地域サロンとか100歳体操はもとより、時々、食事会をしたりとかですね、正月前はもちつき大会を

して、高齢者の方に配ったりとか、いろんな活動をされて、その中で、そういうものをまず広げていこうと。そして、ふれあいマップづくりという事業で、それぞれ1軒1軒の高齢者の方々を、地域の人たちが健康状況を把握していく。もう本当に、外に本当に出れない、でも高齢者が1人でおられる在宅でおられる、もちろん保健師の人たちも面倒を見ておられますが、地域の人たちもやっぱりいろんな声かけをしたり、あるいはたまには弁当をつくって届けてもらったりとかですね。もう既にそういうことを取り組まれている地域もありますので、そういうのが少しでもこう広がって行って、そういうこともそのSWCの一つの環の動きとしてですね、小地域ネットワークづくりということで事業を始めています。まだまだそっちも人が足りないものですから、今国が募集すると地域おこし協力隊とって、こういうことをやる人を募集しますと、福祉関係の仕事をする人を募集しますということ在全国からホームページを見て、手をあげてくれた人をこっちで面接をしてですね、この人ならいいということ雇いますと、3年間国が全部人件費もみんな見てくれるんです。そういう人たちにお手伝いしてもらいながら、気に入ってもらったらそのままあさぎり町民になってくださいと、そういうシステムがあるものですから、そういうものも全部こうフルにに使いながらですね。人づくりと申しますか、そういうことに協力してもらおうような意欲のある方々を募集していこうと考えております。

**○矢野委員** (矢野委員の質問：前半部分は音が入っていないと思います) SWCの取り組みを今初めて知ったんですが、町民の方もご存じでない方もいらっしゃると思いますがこういう取り組みをしますっていうのを啓発していただいて。対象者の方っていうのは、まずは町の方からお声掛けされるんですか。

**○尾鷹町長** はい。まず広報についてはですね、今これもスタートしたばかりで、皆さんまだ体制も十分じゃないし、みんながこの情報共有する、みんなはっていうか、役場の中の関係者が情報を共有することを今一生懸命やってるわけですけど、その一方で、役場の中に総合戦略室っていうのをつくりまして、今室長以下4名ですけれども、もういろんなその各課横断的に、行政は縦割りだと言われるんですけど、それぞれの各課横断した事業になりますので、事業のロードマップ、この事業については、4月にはこういう仕事をします、5月にはこういう仕事をします、6月にはこういう仕事をする予定ですよっていうのを、それぞれからですね、情報を総合戦略室に集めて、そのロードマップの中に落とし込んで行って、みんなが情報を共有しながらやっていくという取り組みをやってます。その中で、また広報担当がですね、広報あさぎりの中に、町民の皆さんたちにわかりやすく伝えていきたいと思っております。それと、だれでも手を挙げたらできますかという質問に対してはですね、今年度は、裏のほうの1番下の「運動・スポーツ習慣化促進事業」というのは、ちょっとこちらのほうから声をかけさせていただいた、その人たちが対象になります。また1ページのほうに戻るんですけど、この2番の枠の中でですね、あさぎり町の今後のSWCの取り組みについてということで、下から2番目の健康ポイント事業のICT化、これはもう全町民を対象にやっていきますので、これについては令和3年度以降になると思っております。今それをちょっといろいろ準備してるところなんですけど、はい。そういうふうにして、皆さんが全員が参加できるような形にはしていきたいと思っております。それはもう関係なく、町民だれでも参加できる、万歩計を買ってもらうことになるかもしれないと思うんですけど、それを常に持っているような活動したものが全部ポイントになっていくように。

**○米良教育長** このSWCの取り組みについては、町長のイメージとされることが話をいろいろ聞く中で、やっとう理解をしてきました。やっぱり最終的にはやっぱりこれはもう私の描いた目標なんですけれども、やっぱり町民の方がやっぱ主体的に運動等を通して健康で豊かな生活を送るようなまちづくりというようなことを教育ばかりではなくて、いろんな課とか、いろんな企業も含めまして、そういうところでみんなで総合的にそういう町をつくっていきましょうというような構想というふうにとらえております。

その中でやっぱり学校教育の中ではどういうことをしていかなければいけないかということで、まずはやはり子供たちが生涯にわたって運動に親しんで、そして健康に過ごすような体づくりというのがやっぱり、根底にあって、それを長期間ずっと継続してもらうというような取り組みが学校教育活動の中の一つかなというふうに思って、そういうところを、今後、展開をしていきたいというふうに思っております。それから社会教育・社会体育におきましても、やはり運動の手法等についても、私たちがいろいろこう研修等を重ねながら支援をしていくと。そして、高齢の方たちも運動の楽しさというのを自分らで感じて、やっぱり生きがいとして取り組んでいってもらうような施策っていうのが大事かなと思っております。ただ、私たちは身体に疾病を持っていない方たちの指導が多かったものですから、やっぱりそういう怪我とか、疾病持ってる人たちへの支援というのは、やっぱり今後勉強していかなければいけないというふうに思っております。久野教授のそういうのも聞きながら、取り組んでいければというふうに思っているところです。

**○尾鷹町長** だから必要なのはですね、よくこの久野教授は片仮名を使うもので、もう理解するのが大変なんですけど、インフルエンサーっていう言葉が使われますが、いわゆる、宣伝マンですね。さっき言われたように、もうどうやって町民にこういう制度があるんですよって、知ってもらうためには、やっぱり口コミ、そのための口コミをする人たちを育てて、できるだけ町民の皆さんたちに理解してもらって、参加してもらうような、広報マンが町には必要ということで、この事業の中にはインフルエンサーという広報マンも育てるようなところもあります。一つに時間がかかっているとあれですので、また機会があればいつでも御質問いただくということで、次にいきたいと思っております。よろしいでしょうか。(○「はい」という意見多数あり)

## (2) あさぎり中学校農業研究クラブについて

**○尾鷹町長** あさぎり中学校農業研究クラブについてですね、一応資料2で準備してくれてますけども、これも私が立候補するとき公約で出したことで、あさぎり町は南稜高校、今は普通課程もありますが、今でも農業コース、それから食品加工科があります。こういう高校はもう本当に全国的にも珍しいんですけど、そして後にJAがあって、その後ろに農業試験場があって、その次にあさぎり中学校がある。こういう本当に恵まれた環境というのは、ほとんど他にないと思うんですね。この立地条件を生かすためにいろんな取り組みを今してますが、その中の一つとして、県の農業試験場を借りて、中学生に農業研究クラブをつくったらどうでしょうかということですね、教育課と一緒に、中学校の方に働きかけましたところ、中学校のほうでもですね、総合教育の中で、まずは今年は取り組みましょうということで、熊本県のほうも、ある程度予算をつけていただいて、農業試験場は使っていていいですよと、それから作物を植えて育てる、そういうところの指導もやっていていいですよ、そしてまた農業に関するいろんな知識を深めてもらうための研修会のもも、計画しますということでやってもらってます。それで、この5番目ですけど、実施要綱の中に、あさぎり中学校2年生の農業体験活動ということで、8月に苗を植えて、霜がおきる前には収穫できるような作物を植えようということになってます。場所は農業研究圃場です。究所の圃場。作物はカボチャ、ピーマン、ブロッコリー、ホウレンソウ、タマネギ、大根、小松菜、枝豆、トウモロコシの9品目で、まず40アールを予定してます。そして実際にですね、栽培指導はJA球磨のOBの職員さんで営農指導員をされた方が手を挙げてもらいまして、この方々が直接指導したり、子供たちがいない間ですね、ちょっと管理をしてもらったり、そういうことをしてます。そして一部は食材の加工なんか、みそ漬けなんかもつくったらどうだろうかというような話も出てます。今、名前はあさぎり中学校農業研究クラブでは、親しみにくい名前ですので、学校のほうで愛称を募集してもらったら、幾つ

か集まってきて、職員会議でどれにか一つ決めていただくということになってます。一応、1番下のほうになりますが、オープニングセレモニーで7月10日、午後1時半よりですね、あさぎり中学校の体育館でオープニングセレモニーをすることになってます。その時には、よろしければおいでいただければと思います。期待される効果というのは、ここにいろいろ書いてありますが、私はやはり、この人吉球磨が農業が基本だと思うんですね。もう米づくりは1000年以上の歴史があるし、あさぎり町を東西に流れる幸野溝・百太郎溝も、これはもう1700年ぐらいにできて、本当に300年以上使われてきて、あさぎり町内の産業の活性化につながっているわけで、それによってあさぎり町は本当に優秀な人材を、すばらしい教育のもとで育った子供たちが社会で活躍してくれています。ただやっぱり残念なのは、今年の成人式は180人の人が成人しましたが、去年生まれた人はその半分の90人なんですよ。ですから、それが何なのか。やはり若い人たちがここに残らないのは何なのか。やっぱりそれは生活の不安ではないかなと思うんですね。だからその生活の不安を取り除くための取り組みもしながら、子供たちにあさぎりの主幹産業である農業のすばらしさを体感してもらって、自分の選択肢の中に、農業をやってみよう、あさぎり町で農業をやってみようという、選択肢をもう一つ加えてもらいたいと思うわけです。そして、我々がそのレールを敷くんじゃなくて、彼らの持つる能力に火がついて、その彼らの能力でこのあさぎり町の次の世代の農業というか、町のあり方というか、そういうものを考えてくれる、私はそういう潜在的能力を持った子供があさぎり町にはいっぱいいると思うんですね。そういう子供たちの能力に火をつけたい。そういうこともありましてですね、ここで農業に触れることで、そういういろんな気づきがあるんじゃないかと。仮に、社会に出て、いろんな場で活躍するにしても、この経験は、私は役に立つんじゃないかなというふうに思ってます。そういうことですね、こういう農業研究クラブを始めました。これからは、今ここからのスタートですけど、将来は南稜高校とも連携して行って、食品加工科がありますので、そういうところで研究してもらいながらですね、また必要であれば、町のほうでも、そういう食品加工の研究所をつくって、そしてそこで研究された作物で、企業ができて、あるいは企業招いてそこで生産して販売していく。そういう6次産業化のところまで、進めていきたいなというふうに考えているところです。それが農業研究クラブの構想です。

**○澤田委員** 総合教育の時間をあてるということですね。なかなか限られた時間で、ようほんと条件は1番中学校は近くに農学校があって、圃場があって、JAがあって。OBの方が3名協力してくれということ。条件的には1番歩いて、徒歩何分で現場に行けますから。何かの機会子供たちが農業に対して興味が得ればですね。頑張って子供達が興味持ってくれば一番よかですね。

**○尾鷹町長** 1年前に就任しまして、皆さんに私のマニフェストは皆さんご覧になって御存じだったんですけど、担当の農振課それからそれを聞いた県の農業普及振興課、それから、中学校のほうはもう教育委員会のほうから話してもらったんですけど、皆さんたちが非常に乗り気でですね、もう私の知らない間にぱぱって何か立ちち上がったという感じです。本当、関係する方々がもう何かすぐ本気モードになって、取り組んでもらったおかげだと思います。私も正直言ってですね、今年はコロナがあったので、今年は大めだろうと思ってたんですよ。そしたらちょっと終息するにつれて、皆さんたちでもう計画は練ってあって、終息したらいつでも取り組めるような状況にはなりました。これも今から、それぞれ関わる人たちの思いで、これがどんどんこの事業がですね、活性化して行って、いろんなこう展開をしていく。私が期待してる以上にいろんなことに話が展開していくことをやっぱり期待しとるんですけど、実は明治大学の小田切教授とって、この方はもう日本で有名な農業関係の教授でですね、もう国の審議会にも必ず参加されるし、いろんなところで講演されてる方ですが、私もその方ある講演会で知って、それからちょっとラブコールを送って、このコロナの時も会えなかったんで、テレビ会議ですね、やりとりし



て趣旨を説明して協力してもらえようになりましたので、だから、あさ中で、農業研究クラブで農業した子が、南稜高校に行って農業コース行って明治大学でまた農業の専門の勉強するというそういう話も出てきたぐらい、明治大学の教授も積極的にですね、協力させてくれと言ってもらってますので、いろいろな展開が広がると思います。皆さんたちもお時間があつたら是非見に行ってください。はい、またいろいろとアイデアを出していただいて。

**○米良教育長** この植物栽培を通した教育活動というのは、本当にあの子供たちの温かい豊かな心を育む教育としては非常にすばらしい効果があるというふうに思っております。こういう活動を通して、やはり先ほどもSWCでもありましたように、子供たちがやっぱりふるさとを愛しふるさとを誇りに思う心のほうにも進んでいくような活動になっていけばと思いますし、そしてこの活動はやはり命を育む教育活動、人権教育にも使うんですけども、そういうところのほうにもつながっていく活動ではないかというふうに思っておりますので、またいろいろな視点から支援していきたいと思っております。

### (3) 通学路の状況について

**○尾鷹町長** 3番目にいきたいと思いますが、通学路の状況について、これは担当者のほうから説明をお願いします。

**○出田課長** 教育課長の出田でございます。よろしくお願ひいたします。座って説明いたします。資料でございますが、資料3になります。この資料につきましては、昨年9月から11月にかけて、各校区毎に、各小・中学校の担当教諭及びPTA代表者、球磨振興局土木部、多良木警察署安全指導員、役場の各担当課合同で通学路の現地確認を実施し、危険箇所について取りまとめたものの中の60件から改善されたもの以外の30件を掲載してございます。この中で、事故が起こりやすく、特に注意を要するというところで警察署のほうから指導していただきました分について説明をいたします。資料は1ページの4番になります。先ほど町長のほうのあいさつの中でございました国道219号線、あさぎり駅前の交差点付近でございます。この分につきましては、歩道の確保ができていないので危険ということ。現在県のほうで改良を実施中でございますけれども、また用地取得等交渉中ということでございます。その図面につきましては7ページになります。この近辺が非常に事故が多いということでございます。また元に戻っていただきまして、7番になります。町道天神32号線。これは皆様御存じかと思いますが、岡原小学校の小学生が横断歩道を横断中に、事故に巻き込まれたという箇所でございます。ATM等が設置されて、見通しが悪いと、また車の往来が見えにくいということでございます。今現在、ここににつきましては、信号機の設置要望書を地区と町から警察署へ提出している状況でございます。場所につきましては、9ページになります。続きまして、3ページをお開きいただきたいと思ひます。3ページの26番になります。町道黒田古町線、町道古町永才線。ここににつきましては、ドラッグモリ近辺がですね、やはり小さな事故が多いということでございます。現在、建設課のほうで歩道整備を実施、計画中でございます。また用地買収につきましても、3年程度必要ということで今現在事業に取り組んでいるということでございます。ページ数は箇所につきましては20ページになります。続きまして、4ページをお開きいただきたいと思ひます。4ページにつきましては、免田地区のですね、みゆきさんから村田産業にあるところの、県道との交差点でございますけれども、こちらが点滅信号ということで、やはり交通量が多く、事故もあつてるということでございます。特に登校時間に小・中学生が多く、非常に危険であるということでございます。これにつきましては、点滅信号の押しボタン方式へ変更するように、町から警察署に要望書を提出しております。場所につきましては21ページになります。29と書いてあるところになります。以上、簡単ですけども、通学路の状況につきましてもの説明とさせていただきます。

○尾鷹町長 はい。ありがとうございました。この中から町のほうで道路整備で出来るところは予算をつけながらやっております。

#### (4) 町の事務事業に対して中学生が理解を深める方策について

○尾鷹町長 はい、では御意見がないようでしたら、また次に進みたいと思います。4番目の事務事業に対して中学生が理解を深める方策についてということで、これはちょっと私からの希望なんですけど、2月にあさぎり中学校の議会が開かれます。それについてですね、去年もちょっとお願いしたんですがもう時間的に、お願いするのが遅かったもんですから、1時間、50分の間にですね、あさぎり町の取り組みなども紹介してもらえないかな、町の予算がどうやって決まるのかとかですね。福祉の取り組み、教育の取り組み、そういうものを50分間という短い時間でも、中学生にわかりやすい資料を作って、話す機会があったらと思います。全校生徒は無理でしょうけど、中学議会に参加する3年生とかですね。あるいはもう参加する子供たちだけでも構いませんので、そういう機会があればと思います。去年、初めて私も中学生議会に行って、もうびっくりしたのはですね、子供たちのあの目ですね。目の輝き。もう本当、もうそれにもう驚かされたというのと、やはり質問するときの本当に何ていうんですか、言葉がはっきりして、一つ一つが丁寧で動作もきちっとして、素晴らしいなと思いました。それで今度はこっち側の課長さんたちが説明するときの聞く姿勢もですね、ほんとにきちっとそっちのほうを答弁者のほう向いて、そして背筋を伸ばしてしっかりと目線で、答弁者の人のほうを見ながらですね、聞いている姿勢にもう素晴らしいと思いました。私も民間企業ですが、もう本当にですね、この人吉球磨の子供たちは素晴らしいという、もういろんなところでですね、素晴らしいという話を聞きます。ですのでそういう機会があればということで、ここに上げさせてもらいました。次に5番目にいきたいと思いますが。

○米良教育長 ちょっといいですか。今の件につきましてですね、もう昨年度もちょっと校長とも話しましたし、今回もですね、ちょっと事前に話をしてみました。やはり学校長からすれば、中学校3年生を中心に、町の施策あたりを聞く機会があれば、本当に質問の幅が広がって、中学生も本当に勉強になるということと。また社会科のほうでも地方自治というのがありますので、その單元にも活かせるということでした。昨年度はちょうど期末テストと前後しましてですね、どうしても難しかったんですけど、今年はまだ文化祭が終わった後11月頃にできればもうお願いしたいというような意見をいただきましたので報告しておきます。

#### (5) 児童・生徒の現状について

<非公開案件につき内容は省略>

#### (6) 戦没者慰霊祭への児童・生徒の関わりについて

○尾鷹町長 すいません。最後のものもちょっと私のこだわりなんですけど、毎年11月に戦没者慰霊祭が行われてます。旧5カ町村で行っていたものを今あさぎり町で統一して、せきれい館でやっていますが、4年ぐらい前までは須恵の文化ホールでやってました。それは参加者がそれなりに多かったんですが、近年段々少なくなって、せきれい館の会場で行うようになってきて、遺族の方、あるいはその親族の方の参加も少なくなってきてます。そういう中でですね、少しやはり形を変えたいということで、昨年、中学校のほうにお願いしまして、中学校の生徒会の皆さんたちも参加していただいて、後で見ていただきました。できたら、今年からですね、慰霊祭の時間を1時間ぐらいのものを少し時間を短くして言うならばあいさつ者をちょっと減らして、そして、一部二部構成にして、二部で中学生を主体に平和の集いでいいですか、

平和について考える時間を1時間以内です、ちょっと短い時間の中でやれというのも難しいんですけども、それに青年団がちょっとお手伝いするような形で、平和の集いをやってほしいというお願いしたらですね。生徒会のほうも、受けてくれましてやりますっていうことだったんですが、今年はちょっとコロナがあって、今年はもうちょっとやれないことになりましたけど、来年度以降ですね、そういうふうな慰霊祭の後に平和の集いをしたいというふうに思っています。何かと申しますと、やはり皆さん子供たちも、長崎の原爆のところにも行くだろうし、いろんな平和教育を受けると思うんですが、私が1番子供たちに私として伝えたいことは、やはり自分の人生がいかに大切にしてもらいたい。この平和っていうのがどれだけありがたいものなのか。そういうことを子供たちに認識してもらいたい。当たり前のようなこの平和が当たり前じゃない地域もあるわけですよ世界には。日本でも当たり前じゃなかった時代があって、そこで若い人たちがほんとに人生の夢も、それから家族達との愛も捨てて亡くなっていった、そういう時代があったと。そういうことを子供たちが気づいてくれて、自分の人生をほんとに大切にしていって有意義なこれからの人生を送ってほしい。そういうことを目的に、あんまりお仕着せなっちゃいけないので、自由な子供たちの発想の中です、平和の集いをしたいということで、今、生活福祉課のほうで今のところ、戦没者慰霊祭の担当は生活福祉課ですので、そちらのほうで今やっていますが、また中学校の方と一緒にやれるようになったら、教育課も一緒に入ってもらって、やることになると思いますので、そういう趣旨でやっております。また教育委員の皆さんからもですね、何かこう、こういうふうにしたらどうかとかいろんな御意見があればまた教えていただければと思いますので、よろしくお願ひします。よろしいでしょうか。(○「はい」という意見多数あり)

#### (7) その他

- 尾鷹町長 では最後にその他ということになってますが、皆さんのほうから御意見等ありましたら。出していただければと思いますけど。はい、どうぞ。
- 矢野委員 先ほど今年の成人者が、出生人が半分に減ってるということを聞いて、すごく驚いたんですが。子供が増えるようにお願いしたいと思いますが。
- 尾鷹町長 1番はやっぱり生活が安定するような、やっぱその収入があることがまず大事だと思うんですけどですね。ですから親子で楽しめる場所とか、ゆとりある生活とか、そういうものを目指していきたいなと思います。教育長は何もなかですか。
- 米良教育長 はい。特にありません。
- 尾鷹町長 よろしいですか。もう、はい、何か私のほうが一方向的にしゃべってしまいましたけど。長時間にわたるですね、いろいろ御意見いただきましてありがとうございました。また教育委員の皆さんたちには、ほんとに子供の未来のために、行政も一生懸命支援をしていますので、どんどん要望等、御意見等あればですね、聞かせていただきましてこの町の将来のため、子供たちの未来のために、力を合わせて頑張っていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。今日は有難うございました。
- 山口課長補佐 閉会の前ですけれども、本会議の要項の中に、この総合教育会議につきましては、議事録を作成して公表するように努めることとなっております。公表するわけですけれども、意見交換の中で、非公開にするべき内容等がありましたら、非公開ということで対応させていただきたいと思ひます。よろしいでしょうか。(○「はい」という意見多数あり) ありがとうございます。それでは、第1回あさぎり町総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。

《閉会 午後2時55分》